

とら
虎の威を借るきつねとら
虎の威を借るきつね (中国の古い話)

ある日、森の中で、とらが一ぴきのきつねをつかまえました。

とらがきつねを食べようとすると、きつねは、あわてて言いました。

「待ちなさい。わたしは、天の神様から、すべてのけものの王に命じられているのだ。

わたしを食べたら、神様にさからうことになるぞ。うそだと思うなら、わたしの後ろに

ついて来てごらん。けものたちが、わたしを見て、にげ出すかどうか。」

とらは、半信半疑で、きつねの後ろについて歩き始めました。

すると、たしかに、きつねの前に出てきた動物たちは、みな、あわててにげていきま

した。とらは、「なるほど、きつねは本当にけものの王なのだ。」と思いこんでしまいま

した。

けれども、動物たちがにげ出したのは、きつねをおそれたからではありません。きつ

ねの後ろにいる、とらをおそれたからだだったのです。

この話から、強い者の力をたよりにして、いばることを、「虎の威を借るきつね」とい

うようになりました。「威」とは、人をおそれさせる力のことです。

1 きつねは、自分のことを、何に命じられていると言いましたか。

すべてのけものの



2 動物たちがにげ出したのは、本当は何をおそれたからですか。

ア きつね

イ きつねの後ろにいるとら

ウ 天の神様

3 とらは、動物たちがにげるのを見て、どう思いましたか。

ア きつねは本当にけものの王なのだと思った。

イ きつねにだまされたと思った。

ウ 自分がこわがられていると思った。

4 「虎の威を借るきつね」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア 強い者の力をたよりにして、いばること

イ かしこく生きること

ウ 強い者にしたがうこと